JAPAN URBAN DESIGN INSTITUTE
都市環境デザイン会議
東京都渋谷区広尾1-10-4
[illegible] ビル[illegible] 150
TELEPHONE 03-5420-5995
FACSIMILE 03-5420-5996

# JUDI NEWS

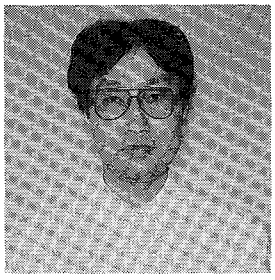
009 December 20. 1992
発行者
都市環境デザイン会議 事務局

● 都市環境デザインをめぐる職能教育・活動領域… 1
● 都市環境デザイン会議・第2期活動計画…… 2
● 今秋・都市環境デザインをめぐっての動向
今、なぜアーバンデザインか(JIA'92 大会ｼﾝﾎﾟ)… 7
ｱﾄﾘｴを地域の人々のあいだに（熊本ｱｰﾄﾎﾟﾘｽ）…… 8
「都市景観の日」について …… 9
シビックデザイン ……12
都市景観のあり方をめぐって ……13
国際パブリックデザインフェアNAGOYA'92 ……14
● お知らせと報告
全国ブロック幹事会（長野）報告……15
代表幹事会 ……15
広報・出版委員会 ……15
事務局 ……16

# 都市環境デザインをめぐる職能の教育と活動領域

## 第2期定例総会シンポジウム

高見　公雄
KIMIO TAKAMI



去る7月18日（土）に開催された第2期定例総会時に、ＪＵＤＩ研究・研修委員会が開催したシンポジウムの概要について紹介します。

パネリスト

曽根　幸一　（芝浦工業大学教授）
蓑茂寿太郎　（東京農業大学助教授）
窪田　陽一　（埼玉大学助教授）
伊藤　清忠　（東京学芸大学教授）
岡　道也　（九州芸術工科大学教授）

ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ

篠原　修　（東京大学教授）

篠原　修（ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ）

都市環境デザインに係わる人々の活動領域、背景となる教育、発想の原点等について相互認識し、基本的な考え方を共有化していくことが重要と考え、主だった分野の代表5名の方に教育の内容、各分野の得意な側面と欠点、他分野との協調のあり方等について講義をして頂き、その後ディスカッションしたい。

曽根幸一（分野：美術系建築）

今までの経験から、各学校を相対的に比較することができる。美術学校（芸大）の学生は「感性バカ」、芝浦工大の学生は「理数バカ」と評することができる。都市環境デザインについてはいずれに偏っても具合が悪い。ベンチ一つから大きな環境まで、モノづくりの姿勢を忘れない学生を育てようとしている。

今、問題にしている環境もモノづくりのひとつであるため、モノづくりの背景にある理念、思想を理解することが重要である。

蓑茂寿太郎（分野：造園）

日本における造園教育の問題点は、非常に小さな村社会に閉じこもっていることである。環境デザインでは造園的発想を他学科でも取り入れていく必要がある。また、造園家の再教育も重要な課題である。

農大では1年から専門教育に比重を置き、演習を先に行って講義を聞く耳を作らせるよう、講義先行の従来の体系を崩した。デザインの総合演習の講評は学外の専門家を含めて行う。教える側のチェックとしても有用に作用している。

施工をする人や役所の人もデザインが理解できないと問題を生ずるため、デザインの基本を大学で教えることが重要と考えている。

窪田　陽一（分野：土木）

土木は分野が広く、多様化、分化しており、目に見えるものを横断的に扱う景観は土木の中ではいまだ異色である。

従来の土木学科は、機能と安全が最優先課題とされ、設計は標準設計を習得することに力が注がれていた。現在の学生は計画、設計に興味があり、卒業後の進路としてもこの指向が強いこと等から、計画、設計の比重を高めようとする動きがある。但し、デザイン能力のある教官のいない大学について大きな問題がある。

デザイナーには道路、河川等の土木の分野の違い、それぞれの考え方を理解して欲しい。技術者にはデザインを理解するよう再教育が必要と考えている。しかし、土木教育の基盤は従来のままであり、土木は考え直す時期に来ている。

伊藤　清忠（分野：デザイン）

大学におけるデザイン分野は、大きくグラフィック、プロダクト、環境に分かれている。従来はインテリアが中心であったが、近年外部環境のデザインが主流になりつつある。

デザイン系の学科は実技科目が多いことが特徴であり、東京学芸大学では土木施設のデザインを中心に、デザインコンセプトと目的を踏まえた美的表現に重点を置いた教育を行っている。

大学教育では、美術系には構造、材料、植生、環境行政系の授業、工学系には目的表現に関する授業が加えられる必要がある。

デザイナーの活用については、選定能力のある人が人選し、かつ計画から完成まで一貫して参加

させる必要がある。

岡　道也（分野：工学系建築）

常に野外に出て、現実の生活環境に接し、生きた素材に対する鋭い洞察力と豊かな創造能力の開発を環境設計学科の教育目標とし、授業科目はすべて設計に関連づけている。

取り扱う多様なスケールについて広く関心を持つことがデザイナーに求められる資質である。専門分野間の交流、空間的なスケール調整、歴史遺産の取扱いを含む時間的な連続性等が、環境デザインの空白領域として残っている。デザイナーは計画・構想から設計、実施、追跡調査まで関与していくことが重要である。

プロジェクトごとに大学院生の担当者を決めているが、相手方との交渉、段取りが巧くなると、デザインにも力が付いてくる。都市環境デザインは多様な要素に注目し、関係を調整し、創り出す作業であるため、基本的には段取りの巧さが大いに関係すると考えている。

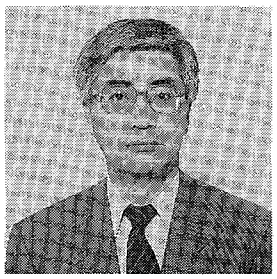
〔ディスカッション〕

- 個別分野のデザインに加え、調整のデザイン、プロデュース等の教育を充実して欲しい。
- 学生を交えて計画、設計を進め、何処でどう決められていくかを見せることが教育だと思う。
- 建築学部、または都市環境デザイン学部が必要。現在は中途半端なことをやっている。
- 色彩は、従来の色彩学から都市環境デザインの色彩として分化していった方が良いかも知れない。

# 都市環境デザイン会議第2期活動計画

## 全体計画

**菅　孝能**
TAKAYOSHI SUGE
代表幹事



都市環境デザイン会議第二期活動計画・全体計画

始動期であった一年間を経て、第二期は本格的に活動を開始する為3つの活動方針を立てている。

**1．ブロック活動と若手会員の活動**

ブロック活動を活発化する為、総額 270万円のブロック活動配分金を各ブロックの計画に基づき11月の代表幹事会で決定した。

代表幹事にブロック活動の支援・連絡調整等を主に担当する運営担当幹事を4名おいて、ブロック活動の企画などを支援することにしている。

**2．情報交換・相互研修の活発化**

各専門分野間の価値観やデザイン発想を認識しながら、デザインという統合化の作業の視点から幅広い議論を喚起する為に、ＪＵＤＩ　ＮＥＷＳに会員寄稿欄を設ける，クロス・トークやシンポジウムを行う，会員の都市環境デザイン事例紹介欄を設ける，等の企画を展開してゆく。

**3．都市環境デザインの社会的認知**

社会的に話題となり専門家として意見を提出すべき事柄についてＪＵＤＩＮＥＷＳ等で会員相互の意見交換を行うだけでなく、市民や非会員の専門家等の交えたシンポジウム討論会等を企画し、都市環境デザインの重要さをアピールするよう努める。

代表幹事会メンバー

総務担当　大塚守康　加藤　源　菅孝能

委員会担当　窪田陽一　近田玲子　南條道昌

運営担当　高橋志保彦　中野恒明　鳴海邦碩　林英光

## 事業委員会

**西沢　健**
TAKESHI NISHIZAWA
事業委員会委員長

事業委員会は、まだ委員の合意に達しておらず、暫定的委員会を行っている状況である。したがって現在は、前年度の引継ぎ事業の遂行と当会議への協力依頼の対応、そして新事業の提案をすすめているところである。

**1．協力依頼の対応として**

①㈶都市づくりパブリックデザインセンターへの講師派遣2名　（担当：佐々木）

②国際パブリックデザインフェア名古屋'92 における中部ブロック事業への協力（担当：西沢）

③全国ブロック幹事会(1992.11.25 於長野）に合わせ、オリンピック会場を中心とするフォーラムを企画したが、㈳21世紀ニュービジネス協議会の都合により中止となった。したがって、オリンピック事務局、地元都市デザイン室訪問に変更となった。これには㈱小布施堂より30万円の協賛を得た。（担当：岡村）

**2．引継ぎ事業としてはモニター・メッセがある。**

昨年度は総会の後、企業10社が参加してのプレメッセであったが、企業側、当会員からも大好評であったので、今年も計画したい。

**3．新事業の一つに出版事業を考えている。**

最都市デザインに関する本が多く出版されているが、当会議としては新しい視点を持った出版を計画したい。

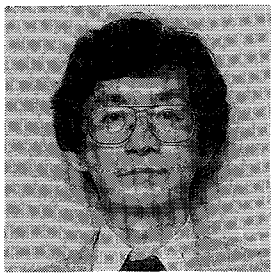
尚、ＪＵＤＩとして行った方が良いと思われる事業や協力依頼があれば、是非ご連絡下さい。

事業委員会メンバー

南條道昌（担当代表幹事）西沢　健（委員長）吉田　博（副委員長）江川直樹、岡村勝司、佐々木政雄、長谷高史、松谷春敏。

## 研究・研修委員会

**篠原　修**
OSAMU SHINOHARA
**研究研修委員会委員長**



**1．会員アンケートの集計・分析**

4月に行った会員アンケートの集計・分析は、単純集計が可能な項目については総会の席上で結果を報告しましたが、会員の相互理解を深めるために残りの項目やクロス集計についてもさらに集計・分析を進めているところです。

**2．会員向けの研究・研修会**

JUDIは様々な分野から参加している組織なので、それぞれの分野におけるものの考え方、デザイン作業の進め方などについて相互認識を深めることが大切です。このための場としてセミナー『都市環境デザイン基礎講座』を開催することを計画中です。数カ月に1回の程度の頻度で、講師による講義（約1時間）と質疑応答（約1時間）を行い、それらをテープ録音して終了後に記録をおこし、加筆訂正してシリーズの形で出版することも検討しています。講義の内容は、ある分野の専門家の立場から、他の分野の専門家に、共同でデザイン作業を行う場合に知っておいて欲しい事柄を中心に構成することになる見込みです。この『講座』の各講義に共通すべき基本的な論点、講義の主題・内容などについての原案を目下検討中です。今年度内に2回程度の開催を考えています。非会員の参加を可能とし参加費に差額を設け、収益性が見込まれる場合には事業委員会との連携を検討します。

**3．講演会**

都市環境デザインの概念や方法論に関する内容のものは2．の『講座』の一環として開催することとします。海外からデザイナーなどが来日した場合の特別講演会については、開催通知に十分時間がとれる場合には全会員向けのコロキウムとして当委員会が窓口になって開催しますが、連絡にあまり時間がとれない場合には、ブロック単位での開催を各ブロックで検討して頂きます。（関東4ブロック第1回合同例会で既に先例あり）

**4．研修旅行**

国内研修旅行については、現地視察対象とする都市があるブロックにおいて、全国ブロック幹事会が開催される時に併催する形を次年度から検討致します。海外研修旅行については次年度以降改めて検討の予定です。

**5．『都市環境デザインマップ』の作成**

この企画は広報委員会からの提案ですが、JUDI News誌上へ連載形式によりブロック毎に最新のものを、できれば会員による批評・評価とともに順次収録して、1～2年単位でまとめていくことにします。会員の皆さんからの積極的な投稿を御願いいたします。

**6．パネルディスカッション**

2．及び3．にも関連しますが、良好な都市景観や都市環境デザインを都市のある場所で成立させる基底となる「景観常識」「場所の質感に対する共通理念」などとも言えるものが、どのようにして形成されるのか、またそれはどのようにあるべきなのか、それらと条例・ガイドラインなどの制度との関係、という問題を討議する場を設けます。企画内容に関しては現在原案を作成中です。開催は春頃の予定です。

研究・研修委員会メンバー
窪田陽一（担当代表幹事）　篠原修（委員長）
浦口醇二　岸井隆幸　倉田直道　榊原和彦
吉田慎悟

## 広報・出版委員会

**土田　旭**
AKIRA TSUCHIDA
**広報出版委員会委員長**

**1．JUDIニュースの充実**

これまでの6～8頁だてを10～12頁だてに充実し、論説1頁、特集4頁、事例2～4頁、ブロック報告2頁、事務連絡1頁を標準的構成にする。

**2．都市環境デザインイヤーブックの発行**

研究・研修委員会と共同でイヤーブック企画編集小委員会を設け企画を練る。隔年発行が限度か。

**3．名簿の改定**

事務局と協力し、名簿を改定する。協力法人欄はスペースを拡大する。

**4．プロフィールブックの発行**

会員の顔と仕事がよりよく見えるようにするため、プロフィールブックを発行する。関東ブロックで先行企画があるのでこの進行をまって全国版を作成する。

**5．ブロッシャー（案内パンフ）**

英文、入会案内付きのものを作成する。

広報・出版委員会メンバー
近田玲子（担当代表幹事）　土田旭（委員長）
小林郁雄　沢木俊問　宮前保子　森延彦

## 北海道ブロック

**矢島　健**
KEN YAJIMA
**ブロック幹事**

道内会員の例会に不便を感ずるのは、札幌の通勤圏外の方々です。現在は、道央と道東に集中して会員が居りますが、道東の会員が札幌での例会に出席するには、いわば東京・長野間に匹敵する時間距離を要します。ファックスとテレホンありとは言いながら、フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションは、結局欠かせません。

北海道ブロックでの活動の活性化は"遠の克服"でもあります。ここに時間とお金がかかります。

北海道ブロックの第2期活動計画は、次の三つの柱で考えております。

**1．例会**

2ヵ月に1回のペースで開催する。

**2．シンポジウム**

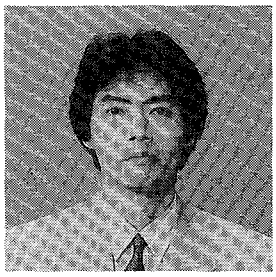
道内主要都市での都市環境デザインに係る行政等での取り組みについて、情報交換を行う。特に道東の会員とのコミュニケーションを深めることも兼ねて行うものとする。

**3．新会員の増員**

ダイレクトメイル等による呼びかけ・PRにより、都市環境デザイン会議会員の増員を図り、北海道ブロック活動をより活性化させる。

## 東北ブロック

山崎　洋二
YOJI YAMAZAKI
ブロック幹事



**1．枠を広げた異分野交流**

東北ブロックに限られたことではないと思いますが、地方に在住する建築家、都市計画家、デザイナー、大学人などで都市における広範囲な環境デザインを視野に入れ、かつ、そのことを活動の軸といている方々の規模は以外と少なく、関心の度合いは高いものの、共通の目的として組織化することのむずかしさが感じられます。

そこで今、仙台を中心に、都市環境デザインという分野にこだわらない任意のプランナーの集まりをもち、交通、区画整理、建築、農業、河川などの異分野のプランナーの交流を深め、都市環境デザインへの関わり方の模索を開始しました。

４年度は、１１月９日に「都市成長管理政策」に関するセミナーを開催し、各分野の人々への呼びかけを行いましたが、今後も継続していく予定です。

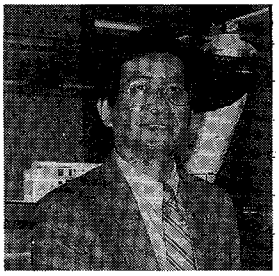
**2．次代の会員育成**

在仙の建築、デザイン系の学生達への情報がかなり閉ざされています。各技術分野での教育課程はしっかりしていますが、大都市部や環境デザインの活発な地域と異って、幅広く刺激的に都市環境を思考するような機会が極めて不足しています。この点が、環境デザイナーやプランナーへの道を阻んでいると考えられます。

そこで、こういった予備軍ともいえる、学生達と共同で都市環境デザインを思考する機会を大学等の協力で進めていくことを計画しています。

## 北陸ブロック

水野　一郎
ICHIRO MIZUNO
ブロック幹事



残念ながら、北陸ブロックの活動は良好ではないというより、始動もしていない。会員数も７名と少ない。それらは幹事の怠慢によるところ大であろう。総会で証人喚問を受けても止むを得ぬ状況である。

しかし、北陸自身は、県レベル、市町村レベル、あるいは地区レベルで景観への取り組みはさかんであり、メンバーの多くは「ケイカン、ケイカンで夜も寝られず」で活躍していることは事実である。

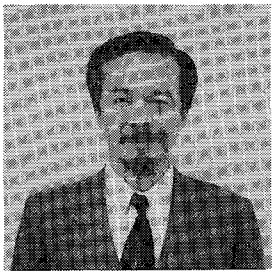
そこで会員会議を経て、まずは北陸での景観行動の集成を行い、ミニシンポ「**北陸における景観施策**」（仮題）を開催したい。その場は集成がテーマであるが、同時に会員交流と会員増強も兼ねる。また、２月の降雪期を選んだのは、北陸の景観テーマとして「雪」をとりあげ、その思考及び試行は北陸の地域性、自立性にとって重要と考えているからである。

**春以降については**、会員会議、及びミニシンポの結果を踏まえて活動計画を練り直してゆきたい。その際は、代表幹事会や各ブロックの知恵や協力をお借りしたい。

北陸は、明治維新以降の近代化も戦後の高度成長の波も完全には受けていない。それだけに、地域性や固有性のある景観形成が可能であると大局的には言えるが、ウラ日本といわれる程の後進性、保守性の中で、そう容易ではないということも十分に体験している。

## 関東ブロック

伊藤　洋
YO ITO
ブロック幹事



本の編集者の言葉に、「読者についてですが、最近、本をつくる人間が読者の代表じゃなきゃいけないんじゃないか、という気がする。最良の読者は編集長なんだ。」というのがありました。

これをＪＵＤＩに即して言うと、「会員についてですが、会を運営してる人間が会員の代表じゃなきゃいけないんじゃないか、という気がします。最良の会員は幹事・委員なんだと。」とは言えないでしょうか。したがって幹事等は「会員のために…」と考えるのを、「自分のために…」と考えたほうがいいのかなと思います。

関東４ブロックには全会員のほぼ３分の２がいます。東西南北に分けてもそれぞれが大所帯です。しかも会員の仕事のテリトリーを考えると４つにブロックを分ける必然性はあるように思えません。で、当面４ブロック合同で活動することにしました。

**1．活動計画の運営・実施**

４ブロック合同の運営委員会を月１回開きます。ブロック幹事（４名）の他に運営委員（若干名）を依頼し、関東担当の代表幹事が逐次参加します。運営委員として一緒に参加していただける方を会員から募っています。

**2．都市環境デザインに関するセミナー**

毎月の例会として本会内外の方に講師を依頼し、都市環境デザインに関するセミナーを開催します。参加できない会員にはセミナーの概要を何回分かまとめてお知らせします。ＪＵＤＩ Newsへの発表も予定しています。非会員の方々の参加も可能です。

**3．会員プロフィールブックの作成**

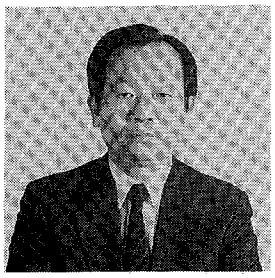
会員相互の情報交換、地方自治体等への情報提供の意味から会員のプロフィールをまとめた本の作成を準備します。その必要性、まとめ方について会員のアンケートを行うとともに、企画を立て、会員のデータを収集し、その編集を行います。

関東ブロックのこの企画・方針は全国版への拡大も可能と考え、その検討を経て来年秋には発行できるのではないかと考えています。

## 中部ブロック

都市環境デザイン会議が発足して１年余、当初、中部ブロックは、10数名の会員でスタートしたが、その後の会員倍増活動が実ってか、現在33名になった。無論単なる会員の増大に意味があるわけで

## 森　延彦
NOBUHIKO MORI
ブロック幹事



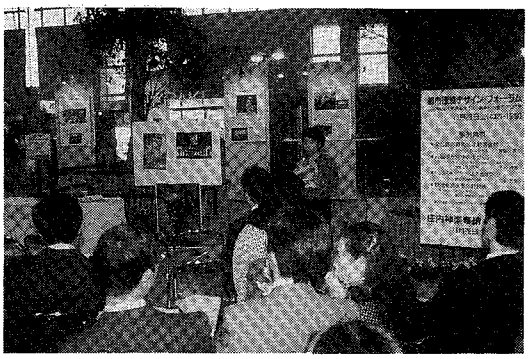
はないが、より多くの会員のネットワーク化を図ることが、まず重要であるので、できるだけ多くの方々に、今後も参画を呼び掛けたい。

さて、第2期が始まったが、代表幹事会の方針もあり、各ブロック活動を推進するということで、活動費もいただけることになった。そこで、中部では、本年度の主要施策として、まず、国際パブリックデザインフェア名古屋' 92に協賛し、都市環境デザインフォーラム・中部を実施した。4名の方に事例を紹介していただいた。都市環境デザイン会議の活動分野の一端を発表してもらうと同時に都市環境デザイン会議の活動分野を対外的にピーアールすることを意図していた。

この種の活動は、実践的に有効であると思われるので、今後も考えていきたい。また、良好な事例に学ぶために、会員の作品の現地見学会も良いのではないかと思っている。広報出版委員会の方針にもＪＵＤＩニュースに事例紹介ページを設けるという。趣旨は同様であり、おおいに推進すべきであるので、中部としても、今後是非会員の皆さんに掲載を呼び掛けていきたい。

私ごとであるが、行政の都市環境デザインの状況をみると、専門家の参画を図る必要性、多様な分野のそれぞれに応じた専門家とのパートナーシップの必要性を痛感している。例えると、都市施設の設計でデザインを考えるあまりか、出来上がったものが、過度になったり、周辺とのバランスを欠くといった事例を目にするようになってきた。評価しうるかどうか、良好であるかどうかといった視点がややもすると見えていない。このため、会員の方々の実務レベルでの参画方策も活動の1つに考える必要があるだろう。

かく言いつつも、すでに半年が過ぎてしまった。会員の皆さんの意向を伺いつつ、発展的な活動をしていきたい。



フォーラム会場風景

**都市環境デザインフォーラム・中部**

11月28日、名古屋市の吹上ホールにおいて、国際パブリックデザインフェアNAGOYA' 92に協賛し、都市環境デザインフォーラムを開催し、作品や研究・計画事例の発表と質疑応答を行った。

パブリックデザインメッセ会場中央のプラザという、まことにフォーラムに相応しい場所で100余名の方々の参画をえて実施することができた。

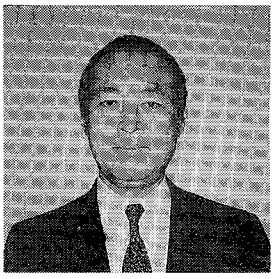
聴衆の方々の熱心さに加え、近田玲子さんの巧みな司会により、成功裡に開催することができた。

事例と発表者は次のとおりの方々である。

○愛知県西春文化勤労会館からくり人形
　人形作家　夢童　由里子さん
○八幡様が見守る街づくり
　歴史と文化が息づく、ゆとりとうるおいのある美しい街をめざして
　景観工学研究所名古屋支店長　玉木　仲伸氏
○トンボをキーワードにした地域づくり
　静岡県磐田市役所主査　竹森　公彦氏
○静岡県清水港色彩計画
　港のカラーコーディネート
　東海大学短期大学部助教授　東　恵子さん
総合司会　近田玲子デザイン事務所
　近田　玲子さん

## 関西ブロック

## 井口　勝文
YOSHIFUMI INOKUCHI
ブロック幹事



関西ブロックの会員数は現在60名弱、ちょうどまとまりの良い1学級といったところです。ブロックからは中央へ代表幹事4名、委員会委員3名が参加していますが、それにブロック幹事、運営委員10名程を加えた15名程が関西ブロックの世話役ということになります。催しによって適材適所、その他の会員の方々にも世話役を引き受けて頂く等、柔軟な組織で程々に運営されているのではないかと思います。

今年度の活動計画ですが、昨年に引き続き2本の柱で会を運営していきます。

**その1：セミナーの開催**

毎月一回。講師には会員クラスの実務経験者に登場頂き、討議を含めて2時間。セミナー終了後は所を替えて懇親会に移ります。参加は会員以外の方々、学生にも呼びかけて毎回30～40名の参加を得ています。初回以来鳴海先生（大阪大学）のお世話で開催しており、この12月で第9回ということになります。

このセミナーが会の存在を継続的にアッピールする重要な柱になっています。

**その2：フォーラムの開催**

92年7月にフォーラムを開催しましたが、その折りに寄せられたパネルを引き続き所を替えて展示、併せてワークショップを開催しようという催しを企画しています。

展示会は「兵庫県立人と自然の博物館」で開催予定です。同時に兵庫県のひとつの町か村に会員が集合、1泊2日でその町（村）の環境診断、環境デザインをやってしまおうという試みです。12月のブロック総会に計った後、運営委員会で具体化していくことになります。お祭り気分で楽しく、気楽にやることで会員相互の交流が深まれば、それが一番の成果であろうと思います。そしてこのような催しは、継続していくことが何より大切であるとも思います。

以上が活動計画ですが、この他に、ブロック運営上、経理処理を明確にする必要を感じています。年度を区切って会計監査を行う等のしくみをブロックとしてもつくる必要があるのではないかと思

います。そうなると関西ブロックの会則も要るかと、そのようなことも今年度の運営委員会では検討したいと考えています。

## 中国ブロック

寺本　和雄
KAZUO TERAMOTO
ブロック幹事

**1．広島アジア競技大会関連施設見学会**

1994年に開催される広島アジア競技大会の関連施設の建設が、現在広島市内を中心に進められており、一部はすでに供用されたものもでてきた。これらの中には、新交通システムや高圧線鉄塔、選手村超高層住宅、メインスタジアムを含む広域公園、室内体育館、など変化に富んだ施設が含まれ、それぞれ建築デザインからランドスケープデザインにわたる新しい取り組みがちりばめられている。その多くは、広島都心から広域公園にいたる、既成市街地と新市街地にまたがった区間に集中している。アジア大会というひとつのテーマにもとづいて、同時平行で莫大な集中投資がなされている、という意味で、研究に値するフィールドといえる。中国ブロックでは、広島市及び大会組織委員会と中国地建の協力を得て、その現状を視察し、懇談会形式で意見の交換を行うこととした。また、できるだけ一般参加を求め、会員拡大の契機としたい。

＜予定＞

- ・主催　都市環境デザイン会議中国ブロック
- ・協力　広島市、広島アジア大会組織委員会、建設省中国地方建設局、中国電力株式会社、中国・地域づくり交流会、パブリックカラー研究会
- ・期日　２月中旬（調整中）
- ・場所　関連施設現地（広島市安佐南区～中区）
- ・参加者　中国ブロック会員、他ブロック有志、一般　合計１５人程度
- ・講師　広島市都市デザイン室、施設デザイナー、市民等

**2．その他の活動**

年度内に２～３回程度の会員親睦会（意見交換会）を開催する。会員数がまだ少ないこともあり、適宜、会員間のスケジュールを調整の上、ブロック運営の方法、各地域での動向紹介などを話題として開催する。

## 四国ブロック

大谷　英二
EIJI OTANI
ブロック幹事

**1．会員の増強**

四国ブロックは、現在、会員が４名（高知－２名、徳島－１名、愛媛－１名、香川－０名）であり、ブロックとしては一番小さい。そこで、本年度は、各県２～３名を目標に、会員の増強を図る活動に重点をおく。

**2．ブロック会の開催**

そのため、会員が一同に会し、今後の活動について話し合うブロック会を開催する。

**3．四国における都市景観づくり調査の実施**

また、今年度から四国の都市景観づくりの実情等の調査を実施する。本年度は、四国においては徳島市を中心に、視察及びヒヤリング、資料収集等を行う。

**4．講演会の開催**

さらに、本会会員の講師を招聘し、都市環境デザインに関する講演会を開催する。会は、平成５年４月頃を予定し、費用、参加者等を考慮し、新日本建築家協会四国支部との共催とする。また、講演会の開催を本会会員の増強を図る一環ともする。

## 九州ブロック

岡　道也
MICHIYA OKA
ブロック幹事

**1．会員増強**

九州ブロックに属する会員は、本年11月末現在で14名（福岡県７名、熊本県２名、佐賀県２名、大分県１名、鹿児島県１名、九州以外１名）である。ブロック活動を充実させる上で、更なる会員増が望まれる。特に、九州全域での多様な情報交換のためにも、現在、会員が不在の長崎、宮崎、沖縄も含めて、各県最低２～３名の会員を確保したい。

**2．九州ブロックの運営方法に関する検討**

短期的には、九州ブロック会員相互の連絡を密にし、意見交換や交流の機会を増やす方向での運営方法を検討する。また、長期的には「九州都市環境デザインガイドマップ」の出版など、本部広報・出版委員会との連携をとりながら、継続的な情報収集・整理の作業に取り組みたい。

**3．研究懇談会の開催**

会員相互の交流と、当デザイン会議の対外的ＰＲを目的とした研究懇談会を開催する。テーマは「九州における都市環境デザインの現状と課題」（仮題）として、民間デザイナー、行政、学界、市民など広く参加を呼びかける。

今年度は初回として、準備の都合上、会員数の多い福岡市において、平成５年３月までに実施する予定であるが、いずれは見学会や懇親会を兼ねて、各県をまわる定期的な催し物として定着させていきたい。

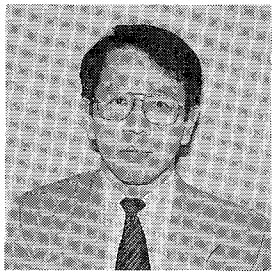
# 今秋、都市環境デザインをめぐっての動向

**都市環境や都市デザインへの関心が各方面で高まっている。その一つの表れとして、さまざまな催しが全国各地でもたれた。ここに紹介するのはその一部にすぎないが、本会議の今後の活動とも深く関わる動きとして注目したい。**

## 今、なぜアーバンデザインか

### 新建築家協会'92 横浜大会ｼﾝﾎﾟｼﾞｳﾑより


**倉田　直道**
NAOMICHI KURATA
新建築家協会
関東甲信越支部
ｱｰﾊﾞﾝﾃﾞｻﾞｲﾝ部会
JUDI会員

去る１１月４日から６日までの３日間、横浜市のパシフィコ横浜を会場に「まちと建築」をテーマとする㈳新日本建築家協会（ＪＩＡ）の大会が開催された。11月４日は、アメリカ建築家協会ＡＩＡとの共催による国際デザイン会議、11月５日と６日にはＪＩＡ大会としての多彩なイベントがくりひろげられ、全国から会員千数百人が参加した。ＪＩＡ大会の主なイベントとしては、司馬遼太郎氏による基調講演、国内外の建築家による国際シンポジウム、ＪＩＡの各支部からのケースレポート、「ひとがまちをつくり、まちがひとをつくる」と題する市民向けプログラム、都市デザイン・セミナー「今、なぜ都市デザインか」、パネル展示、見学会などが行われた。

**ＪＩＡ都市デザイン分科会**

このうち、セミナー「今、なぜ都市デザインか」は本年度ＪＩＡの関東甲信越支部デザイン部会の中に正式に発足した都市デザイン分科会（会員数約30名、座長：倉田直道）の主催によるもので、ＪＩＡの全会員に対して都市デザイン分科会の活動を最初にアピールする機会でもあった。都市デザイン分科会は、新日本建築家協会という建築家の職能団体の中にあって、これまで建築家の都市や地域社会との関わりに関連する活動に対して十分に満足していなかった会員が、ＪＩＡの中に討論や交流の場を求めて４月に発足したもので、発足以来月１回の例会を行ってきた。ＪＩＡ大会のイベントとして開催された今回のセミナーは、一般の人々の都市環境や都市空間の質に対する関心が高まるなかで、まちづくりや都市との関わりに必ずしも積極的とはいえないＪＩＡ会員の建築家たちに対して、何らかの問題提起と刺激を与えることができればということで発案されたものであった。セミナーには、都市デザインの第一線で活動している長島幸一（ＪＵＤＩ会員）、土田旭（ＪＵＤＩ会員）、西村幸夫（東大助教授），国吉直行（横浜市都市デザイン室）、レイコ・ハベ・エバンス（米国在住都市プランナー）の専門家の方々に参加をお願いし、都市デザインの現状と課題、まちづくりにおける建築家の役割など、都市デザインの多様な側面から問題提起と討論を行った。セミナーにおけるそれぞれの講師による発言の要旨は次のようなものであった。

**市民社会形成プロセスと都市デザイン：長島幸一**

建築の群れが街の雰囲気をつくっているヨーロッパの都市を訪れると、そこに街そのものを創るという意志が働いてきたことを感じる。その背後には民主的な市民社会の伝統があり、市民が都市を創ってきたのがヨーロッパである。それに対して日本においては、30数年前と比べて社会のあり方もあまり変っておらず、その結果市民社会というものも育っていない。アーバンデザインとは、専門家だけのものではなく、市民を巻き込んだ市民社会をつくるプロセスでもある。アーバンは都市の状況を示す概念で、シビックは社会のあり方まで示唆する概念であることから、アーバンデザインだけでなくシビックデザインの意味を考えることが必要である。市民がオーナーでありクライアントであるという認識のもとに、どのようなまちにしたいかという市民の意志を確認する機会をつくりことが必要であるが、それと同時に市民の教育も必要である。

**公共政策としての都市デザイン：レイコ・ハベ**

アメリカにおける都市デザインは、「メガ・アーキテクチャーとしての都市デザイン」から「公共政策としての都市デザイン」へと変化してきている。公共機関がデザインを制御する具体的なシステムとしては、都市デザインの審査プロセスとデザイン・ガイドラインがある。そうしたシステム導入の動機としては①観光資源としての街並みの経済価値やコミュニティ・ビルダーであるデベロッパーの不動産価値の保全、②景観の阻害要因の除去や市民の福祉を守るための法的根拠、③生活者・ユーザーの視点や地域性に対する配慮の欠如したドグマ的な現代建築への不満などである。アメリカの多くのとしでは、デザイン審査のプロセスに市民が参加するのは常識であり、アメリカ建築家協会ＡＩＡのカリフォルニア支部のＢＥＥＰ（Built Environment Education Program）のような市民教育プログラムなど、専門家が市民を啓発する機会も与えられている。ＪＩＡの建築家は、専門家集団として組織内部での議論も必要であるが、専門家である前に一人の市民としての自覚を持つことも必要である。

**地域に根ざした都市デザイン：国吉直行**

20年前にスタートした横浜市における都市デザインへの取り組みは、アメリカにおける都市デザインを参考にしながら、開発のコントロールと公共空間のプロジェクトを中心に横浜独自の都市デザインを目指して行ってきた。なかでも公共空間である道路と民間の建築敷地とのまとまりを実現するための道路空間の先行的な整備と、景観に配慮した歴史のある既成市街地の再整備を重点的に行ってきた。日本でシビック・デザインというと、市民社会のあり方を含む都市づくりというより、橋などの土木構造物のデザインになってしまうのが現実である。都市デザインにおいては、地域に根ざした係わり方が必要であり、他都市でやって

いることを真似してもだめである。

**市民の合意形成と都市デザイン：西村幸夫**

我が国における都市デザインの状況は過渡期である。東京駅の保存を巡る建築家の議論をみても、都市デザインを“建築の自由”や創造性の制限としてしか捉えていないところがある。京都駅コンペの議論においても、市民の都市像に対する合意形成がないままにこのコンペが行われたところに問題があるのであり、建築のクリエイティビティの問題としてだけ議論されているのはおかしい。高さの問題は、京都市民が京都のまちをどうするかを考える最も大切なきかっけである。我が国の都市の公共政策にも都市美といった要素が入ってきて、景観条例などが制定されるようになってきたが、欧米のデザインガイドラインのような規制力はない。日本では伝統に対する考え方が違うこともあり、デザインガイドラインのベースとなるフィジカルなデザインに対する市民の合意が得にくい。そのため、イベントなどを含むソフトな側面を有する市民参加のまちづくり活動に、より日本的な可能性があるといえる。

**街並みを創る〈まち型建築〉のすすめ：土田旭**

都市デザインやまちづくりの活動を通じて強く感じていることとして①建築家はランドマーク建築と街並みをつくる建築（まち型建築）のあり方を考えるべきであり、それは書割り的なものであっても構わない、②建築の機会の公正さを確保することが必要である、③シビック・デザインやパブリック・デザインのと呼ばれる近年の公共土木事業にはデザイン過剰の傾向がみられる、④デザイン・ガイドラインはまちづくりのゲームのルールであり、建築家がゲームのルールづくりに参加できる仕組みが必要である、という４つが挙げられる。

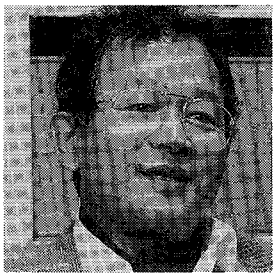
**これからの課題**

時間の制約と討議内容が多岐に渡ったこともあり、個々のテーマに対して充分に踏み込んだ討論はできなかったが、現在の都市デザインの置かれた状況を踏まえＪＩＡの建築家に対して幅広い問題提起をしてもらおうとしたセミナーの当初の目的はそれなりに果たせたのではないだろうか。そして、①景観の枠組みやデザインガイドラインなどを創造の可能性や表現自由を制約するものと捉える建築家の側にある都市計画や都市デザインに対するアレルギーや被害者意識の解消、②我が国おけるまちづくりを通しての市民社会形成の可能性とそしてその形成過程における建築家や都市デザイナーの役割、③魅力的な街並み形成のための書割りあるいはテーマパーク的アプローチの是非、といったこれから建築家を交えて議論していかなければならない都市デザインを巡っての主要な問題が明らかになったことは、意義深いことである。専門家にとっては、「今さら、なぜ都市デザインか」という事柄であっても、それを一つ一つ確認し問題意識を共有していくプロセスがいま必要なのではないだろうか。そのためにも、ＪＵＤＩとも一部のメンバーが重なるＪＩＡの都市デザイン分科会がＪＵＤＩとの相互交流の場としての役割を果たせたらと考えている。

# アトリエを地域のひとびとのあいだに

## 熊本アートポリスの課題

延藤　安弘
YASUHIRO ENDO
熊本大学
JUDI会員



1992年秋、熊本はアートポリス。造形に辣腕をふるう建築家による27の作品が、地元内外の人びとによって見学・論評された。

それが都市環境デザインの文脈において如何なる評価がなされるか、判断はむずかしいが、ここでは小生が期待するこれからのアートポリスの仕掛けについてひとことふれたい。

それは地域の環境形成の計画的コンテクストの中でとらえ方向づけるという点である。第１期のそれでは、八代市立博物館のように、地域づくりの活性化の媒体となったよき事例もあるが、その多くは作家のアトリエでの成果の実現にとどまっている。アートポリスを「内発的建築価値創造」の視点からとらえるならば、設計者の創造の場は、自己のアトリエのみでなく、アトリエは地域の人びとのあいだにあるというスタンスとすすめ方が求められる。

アートポリス作品が、地域の人びとのあいだに成立することを可能ならしめるためには、第１期のように「地域分散型」だけでなく、都市環境整備のための特定地区を設定し「地区集約型」のパターンを意図的に位置づけることが期待される。例えば熊本市では都心にある歴史的市街地である新町・古町地区をそのフィールドにしたい。そこでは地区に内在する多様な主体と外からの支援主体によるまちづくり協議会を発足させ、まちづくり計画を作成し、地区の課題ごとに検討部会を設置する。住宅建替検討部会、道路検討部会、生活道路検討部会、商業近代化検討部会などなど。協議会や各部会の討議・学習の積み重ねの中で、建築作品として重点的に創造すべき施設・住宅等が位置づけられる。

その設計プロセスは、アトリエの中で閉ざされることなく、地域の人びとの「こんな町・建物にしたい」のつぶやきを集めることから始め、レイアウトや間取りの要素パターンを作ったり、それらを多様に組合わせたりしながら、楽しみながら空間イメージと使い方イメージを高めていく。こうした創造プロセスに地元住民たちの能動的参加により楽しくコトを進める手法をワークショップというが、設計者はワークショップの中にたえず身をおきつつ、ユーザーの言動から触発されたり、逆に、ユーザーの意識を啓発し創造力を喚起する力にみちた形態を提起する。

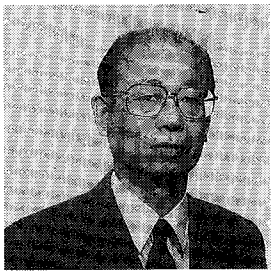
こうした地域にひらかれたデザインプロセスをたどることにより、モノ単体の造形性のアートのみでなく、都市環境の文脈を豊かにするアートと、地区に定住する住民のくらしをアート化する地平

がみえてくる、オープンエンドなまちづくりが可能となろう。このやり方は、アトリエ派建築家指命方式をこえて、草の根的な無名の人びとの協働、即ち熊本でいう「もやい」方式を活用することになる。

次期のアートポリスでは、「アトリエ派落下傘型」のみでなく、〈社会芸術〉を説くヨーゼフ・ボイス（ドイツの20世紀最大の美術家であり思考家）のいう「アトリエを人びとのあいだに」＝「地区住民参加型」の機会がひらかれることを切望する。

# 「都市景観の日」について

柱本　幸保
YUKIYASU HASHIRAMOTO
(財)都市づくりパブリックセンター(UDC)



ＪＵＤＩ事務局の方から、当センター（以下ＵＤＣという）の最近のニュースから、今秋に各地で行われた都市景観の日のイベントにちなみ、「都市景観の日」について紹介をというご依頼を受け、都市景観づくりに携わる一員として有り難くお受けした。

ここでは「都市景観の日」および「都市景観大賞」について、初年度にさかのぼりご紹介することとした。

**1．「都市景観の日」制定の経緯**

平成２年、建設省で１０月４日「としび（十・四・日）」を「都市景観の日」と定め、美しく、豊かな社会を創造するための都市景観運動を推進することになり、ＵＤＣを含む建設省関係公団、公益法人等１８団体で実行委員会が設立された。

一方、ＵＤＣが平成元年９月に、都市景観づくりの専門の調査研究機関として設立され、その設立の趣旨（後述をご参考）から、「都市景観の日」実行委員会の事務局をお引き受けすることになった。

またこの「都市景観の日」のメインの行事（中央行事）として、前述の実行委員会が建設省の後援を得て主催者となり、事務局はＵＤＣが行い、各地における行事（地方行事－アーバンデザインフエア）は地方公共団体等が主催して行うこととなった。

そしてこの日を中心として都市景観に係る各種イベント等の活動を重点的に展開し、国民の意識啓発をはかっていくこととなった。

具体的実施要領は１０月４日を中心とした期間（９月～１１月程度）に中央行事および各地における行事（アーバンデザインフェア）として

（１）シンポジウム等講演会
（２）パネル展示
（３）タウンウオッチング
（４）都市景観賞の表彰
（５）ライトアップ
（６）その他ＰＲ活動

等を実施することとされた。

＊（ご参考）ＵＤＣの設立とその事業等

・平成元年９月、公共空間に係わる景観材関連企業、都市開発関連企業等、約１００社の出捐により設立、同時に都市づくりに直接携わる公共団体も、民間会員と共に賛助会員として参画し、質の高い都市の公共空間のデザインとその整備についての官民一体の調査研究機関として活動するにいたった。
・事業として、パブリックデザインに関する各種の自主研究会の推進、データバンクの整備による会員に対するサービス、受託業務、研修会・懇談会の開催、機関誌の発行、表彰制度（都市景観大賞）等事業を拡大している。

**2．平成２年（第１回）、平成３年（第２回）の「都市景観の日」の実施**

ここで第１回と第２回の実施内容につきふれておく。

（１）第１回「都市景観の日」

中央行事として平成２年１０月４日、千代田区公会堂において行われた。参加者　約８００名

・鼎談　「都市計画の歩みとまちづくり」
　井上　孝氏　菊竹清訓氏
　佐藤　昌氏
　司会　市川一朗氏（都市局長）
・パネルデイスカッション
　「明日の都市景観」
　コーデイネーター
　新谷洋二氏（東大教授）
　パネリスト
　池原謙一郎氏　石井幹子氏
　加藤　源氏　椎名　彪氏
　中村良夫氏　渡辺定夫氏
・都市景観宣言

井上実行委員会会長より、「都市景観宣言」（表１）が読み上げられ宣言された。

企業、公共団体のパンフレットコーナー、関連図書コーナー、ＣＧコーナー等を併設した。また都内の数か所でライトアップが行われた。

各地における行事は浜松、名古屋、金沢、北九州の４か所でそれぞれ地方公共団体等の主催でアーバンデザインフェアが行われた。

（２）第２回「都市景観の日」

平成３年１０月４日、日比谷公会堂において、大塚建設大臣をはじめとするご来賓のご臨席のもと「都市景観の日」の中央行事として、平成３年より新たらしく制定された「都市景観大賞」の発表と表彰式が行われた。そして基調講演、パネルデイスカッション等が行われた。

参加者　約１０００名

・都市景観大賞表彰
　都市景観１００選　１０件
　景観形成事例部門（地区レベル）　１０件
　景観形成事例部門（小空間レベル）１０件
　合計　３０件（３０地区）
・基調講演　「世界の都市景観」
　芦原義信氏
・パネルデイスカッション
　「都市の個性と景観」
　コーデイネーター

## ■都市景観宣言

21世紀を迎える日本にとって、今日、美しく、豊かな都市空間を創造することは、最大の国民的関心事である。

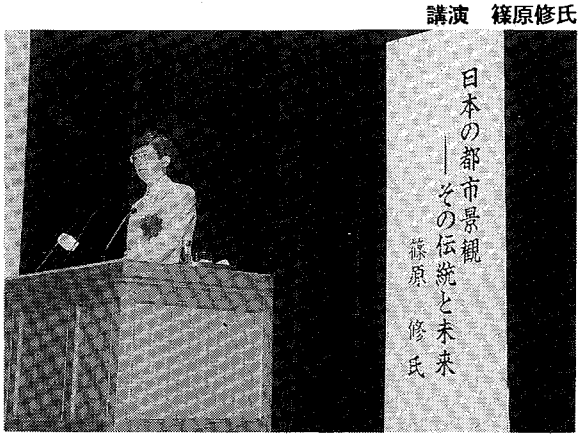
人と人とのふれ合いの“場”である都市は、生産や生活の空間であるとともに、新たな文化創造の拠点としても位置づけられるものであり、多様な価値観、多種の社会的ニーズの高まりの中、さらには人々が地球的規模で交流する現在、都市空間をよりうるおいのある個性的・魅力的なものとして整備することは極めて重要な課題である。

「都市景観の日」制定を機会に、以下、宣言する。

1. 都市の景観は、地域の自然、歴史・文化、社会・経済活動が反映されたものであり、地域のアイデンティティーを表するものであるとともに、地域共有の財産である。
2. 21世紀に向けて、共有の財産である都市の景観を守り育むことは、今を生きる我々の責務である。
3. 豊かな都市空間を創造し、良好な都市景観を形成することを通し、都市のより本質的な美しさを追求しなければならない。
4. 美しく豊かな都市空間を創造するためには、都市景観に対する国民の認識を高めるとともに、都市景観形成に対する国民のコンセンサスを得ることが必要である。
5. 行政と市民が一体となり、あらゆる機会を捉えて関連するすべての人々の創意工夫によって、豊かな都市空間の整備と美しい都市景観形成に取り組むものとする。

「都市景観の日」実行委員会

講演　篠原修氏



資料展示コーナー

山田　学氏（東大助教授）

パネリスト

小林治人氏　　井口勝文氏

尾崎真理氏　　西沢　健氏

市川一朗氏

・都市景観宣言

これは初年度より始まり毎年行事の締めくくりとして確認し、参加者の気持ちを新たにしている。

各地における行事は静岡、岐阜、姫路、北九州、福岡、熊本において、それぞれ地方公共団体等の主催で行われた。

3．「都市景観大賞」の概要（ご参考）

平成3年より「都市景観の日」に、中央では「都市景観大賞」が創設、制定された。その概要をご参考までに紹介する。

（1）背景および目的

都市景観大賞では、総体としての都市環境が優れた地区並びに高い水準のデザインが具現化されている地区を広く募集、発掘し、これを讃え、都市空間の魅力の背景にある総合性並びに造形としてのデザインの重要性を世に訴え、さらなる良好な都市空間の創出並びに景観形成を促進することを目的として種々の表彰を行うものである。そして市民一人一人の景観形成への意識を高めることを目的としている。

（2）都市景観大賞の部門

1）都市景観100選

・都市レベルに相当　－建設大臣賞

都市が形成される歴史的過程のなかで、「都市の総体」として良好な都市空間が培われているまとまりのある地域、地区にかかる表彰。

2）景観形成事例部門

・地区レベル　　－UDC会長賞

都市づくりにかかわる複数の事業、活動により、良好な景観が形成された地区にかかる表彰。

3）景観形成事例部門

・小空間レベル　　－UDC会長賞

良好な景観形成のため、素材の使い方やきめ細かなデザイン上の配慮等、空間デザインに積極的に取り組んだ小さなまとまりのある空間にかかる表彰。

の3部門からなり、それぞれ10件（地区）程度を審査委員会で選定し、毎年「都市景観の日」中央会場で発表、表彰を行うこととしている。

4．平成4年度（第3回）「都市景観の日」

平成2年に第1回が実施され、JUDIの会員の方々にもご支援頂きつつ、回を重ねるごとに内容も充実し、平成4年に第3回目を迎えることができた。

（1）中央行事

本年度は、10月2日（金）に日比谷公会堂において行われた。参加者　約900名

（掲載写真はその日のもの）

○都市景観大賞表彰

本年度も審査委員会で3部門、合計30件が選定され建設大臣賞、UDC会長賞とし

表2 平成4年度都市景観大賞入賞一覧

| 都市景観100選部門 | 景観形成事例部門（地区レベル） | 景観形成事例部門（小空間レベル） |
|---|---|---|
| 1．地区名　盛岡城址・中津川周辺地区<br>受賞者　盛岡市 | 1．地区名　ウッドタウン緑が丘<br>受賞者　旭川市・北海道住宅供給公社 | 1．地区名　リベライン旭川パーク（ドリームランド）<br>受賞者　旭川市 |
| 2．地区名　千葉市土気南地区<br>受賞者　千葉市 | 2．地区名　日立駅前地区<br>受賞者　日立市 | 2．地区名　福島駅東口駅前広場<br>受賞者　福島市 |
| 3．地区名　金沢シーサイドタウン住宅地区<br>受賞者　横浜市 | 3．地区名　グリーンタウンしもつけ「薬師川」地区<br>受賞者　住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部 | 3．地区名　明和高前街園<br>受賞者　名古屋市 |
| 4．地区名　大垣駅周辺地区<br>受賞者　大垣市 | 4．地区名　東品川2丁目（天王洲）地区内シーフォートスクエア<br>受賞者　品川区・三菱商事（株）・（株）第一ホテルエンタープライズ（株）第一ホテル・宗慶興産開発（株）・（株）アール・アイ・エー | 4．地区名　勝竜寺城公園<br>受賞者　長岡京市 |
| 5．地区名　岐阜公園周辺地区<br>受賞者　岐阜市 | 5．地区名　都立木場公園周辺地区<br>受賞者　東京都 | 5．地区名　緑風橋（人道橋）<br>受賞者　大阪市・吹田市・松下電工（株） |
| 6．地区名　静清地区<br>受賞者　静岡県 | 6．地区名　千福が丘地区<br>受賞者　裾野市 | 6．地区名　田原地区（パークヒルズ田原）<br>受賞者　住宅・都市整備公団関西支社 |
| 7．地区名　旧居留地地区<br>受賞者　神戸市 | 7．地区名　ＲＯＫＫＯ２３（ヴァントワァ）<br>受賞者　小泉製麻（株） | 7．地区名　弁財天公園<br>受賞者　西条市 |
| 8．地区名　福山市鞆地区<br>受賞者　福山市 | 8．地区名　西川緑道公園周辺地区<br>受賞者　岡山市 | 8．地区名　香港市域内地区及び東香港地区（東彌義）<br>受賞者　佐賀県・昭和産工（株）・住友軽金属工業（株）・松下電工（株） |
| 9．地区名　松江城周辺地区<br>受賞者　松江市 | 9．地区名　倉敷川畔地区<br>受賞者　倉敷市 | 9．地区名　広町地区<br>受賞者　山鹿市 |
| 10．地区名　東山手地区・南山手地区景観形成地区<br>受賞者　長崎県・長崎市 | 10．地区名　ベイサイドプレイス博多埠頭<br>受賞者　（株）サン・ピア博多 | 10．地区名　天神おっきや商店街（ぴらもーる）<br>受賞者　鹿児島市・天神おっきや商店街振興組合 |

て授与された。（表２）

○表彰事例紹介

応募者資料をもとに、事務局で編集した、ナレーション付きスライドによって紹介された。

○講演

・「日本の都市景観－その伝統と未来」
篠原　修氏

・「都市文化の形成」
栄久庵憲司氏

都市景観宣言の確認とともに都市景観に関する国際交流も行っていくことが紹介された。

会場内には関連図書と、企業カタログコーナーが併設された。会場外では、この日にあわせて都内の主要施設、国会議事堂、迎賓館、絵画館、最高裁判所等のライトアップが行われた。またパネル展が東京都との共催で１１月９日～１３日、都庁展示ホールにおいて行われた。

（２）各地における行事

各地における地方公共団体等主催による行事一覧を（表３）にあげる。

ご覧のように、本年度は３４のイベントが１０月から１１月にわたり各地で行われた。平成２年に「都市景観の日」が制定されて以来、建設省のご後援はじめ関係各位のご支援により、この「都市景観の日」がまさに全国規模の行事になりつつあり、共によろこぶべきことと思う。

イベントの一つ一つをここでご紹介することはできないが、内訳をみてみると、講演会シンポジウム、景観賞、絵画コンクール、パネル展、タウンウオッチング、ライトアップ等と多岐にわたっている。これらの講演会等の講師に、または景観賞等の審査員等に、ＪＵＤＩの会員の方々が各所でご活躍されていることがうかがえる。

５．都市景観運動の推進

「都市景観の日」について、その制定にさかのぼりご紹介した。平成４年度で第３回目となったが、やっとスタートから助走段階に入ったともいえる。この都市景観運動の推進は「都市景観宣言」にあるように－－美しく・豊かな・うるおい・文化創造・個性的・国民のコンセンサス・行政と市民が一体　等からなるフレーズ、いわば都市景観形成のためのキーワードが盛られており、高い目標を掲げている。

この運動がつづき、みんなの意識啓発を促し、都市景観づくりがより促進されることを期待するものである。そのためにも今後とも行政と市民、それに都市づくりに携わるコンサルタント、資材製造者、建設者等が一体となって推進が望まれる。

この「都市景観の日」は建設省のご後援のもとに、実行委員会各委員団体、協賛を頂いた団体等、また初年度からいろいろご助言、ご支援を頂いた諸先生方等に支えられていることを感謝し、あわせて、ＪＵＤＩ会員の皆様には引きつづきこの「都市景観の日」はもとより、ＵＤＣの都市デザイン関連活動にご理解とご支援を、そしてＵＤＣとのよりよい連携を願い、むすびとする。

表３ 平成４年度「都市景観の日」各地における行事

| イベント名称 | 都市名 | 時期 | 主催 |
|---|---|---|---|
| 北海道の景観を考えるパネル展 | 札幌市 | ９月２８日～１０月２日 | 北海道 |
| 都市景観パネル展 | 札幌市 | ９月１４日～１９日 | 札幌市 |
| 旭川景観ウォッチング・フォーラム | 旭川市 | １０月１４日 | 北海道・旭川市 |
| 見つめ直そう我がまち、考えよう個性あるまちづくり | 網走市 | １０月２１日 | 北海道・網走市 |
| 都市景観の日記念イベント「みんなでつくる街の顔」 | 秋田市 | １０月４日～６日 | 秋田市 |
| 第１６回盛岡市都市景観シンポジウム | 盛岡市 | １１月２６日 | 盛岡市 |
| ´９２景観ベスト１００ ＩＮ ＩＷＡＴＥ | 岩手県（新聞広告） | １０月４日～３１日 | 岩手県 岩手日報社 |
| 景観文化シンポジウム「都市の街路を考える」 | 仙台市 | １１月５日 | 仙台市 (財)仙台市市民文化事業団 |
| 都市景観シンポジウム | 新潟市 | ５年２月 | 新潟県・新潟市 |
| 県政バス教室（街並み探訪） | 富山県内（バスで移動） | １０月５日 | 富山県 |
| たてばやし´９２景観シンポジウム | 館林市 | １０月２７日 | 館林市 |
| 平成４年度 船橋市都市デザインコンクール | 船橋市 | １０月３日～９日 | 船橋市 |
| 都市景観大賞等写真パネル展 | 東京都 | １１月９日～１３日 | 東京都・建設省 |
| 都市景観フォーラム | 鎌倉市 | １０月４日 | 鎌倉市 |
| ぎふ都市景観フォーラム inかがみがはら | 各務原市 | １０月６日 | 岐阜県・各務原市 |
| 第４回 掛川都市景観写真コンクール | 掛川市 | １０月４日 | 掛川市 掛川都市景観を考える会 |
| 第４回 街づくり講演会 | 浜松市 | １０月６日 | 浜松市 |
| 豊田市まちづくりウォッチング | 豊田市 | ９月２７日 | 豊田市 |
| まちづくり講演会 | 富士市 | １１月４日 | 富士市 公共の色彩を考える会 |
| 市長と語ろうわがまち浜北 | 浜北市 | １０月４日 | 浜北市 |
| 三河安城駅周辺地区まちづくりシンポジウム | 安城市 | １０月２日 | 三河安城駅周辺地区まちづくり推進協議会 |
| 国際パブリックデザインフェアNAGOYA´92 | 名古屋市 | １１月２５日～２９日 | 国際パブリックデザインフェアNAGOYA´92 開催協議会 |
| 京都府まちづくり推進事業 魅力あるまちづくりの方向 | 亀岡市 | １０月２７日 | 京都府・亀岡市 京都府都市計画協会 |
| 神戸景観、ポイント賞表彰式記念講演会 | 神戸市 | １０月１５日 | 神戸市 |
| 神戸ショーウインドーコンテスト´９２ | 神戸市 | １０月９日～１１月９日 | 神戸ショーウインドーコンテスト実行委員会 |
| ビジュアル・シンポジウム 光文化－歴史都市からの発信 | 姫路市 | １１月６日 | 姫路市 |
| 第２回 ふるさと広島景観フォーラム | 広島市 | １０月１２日 | 広島県 その他３団体 |
| 第２回「岡山県まちづくりアイディアコンクール」 | 岡山市 | 募集 10月15日~ 表彰 ５年３月上旬 | 岡山県 |
| ´９２シビックデザインセミナー | 岡山市 | １１月１８日 | 岡山県 |
| 都市デザイン IN 下関 | 下関市 | １０月１６日 | 下関市 |
| アーバンデザインフェア都市景観シンポジウム | 北九州市 | １０月６日 | 北九州市 その他３団体 |
| 公共景観国際フォーラム´９２ | 熊本市 | １０月１日～２日 | 熊本県 |
| 都市景観フォーラム | 宮崎市 | １１月７日 | 宮崎県・宮崎市 |
| 都市景観の日講演会 | 都城市 | １０月２日 | 都城市 |

## シビックデザイン地区講習終了 公共施設デザイン研修スタート

篠原 修
OSAMU SHINOHARA

大臣官房技術調査室がまとめ役となって、建設省の土木系の全部局（河川局、道路局、都市局）及び土木系の全公団（道路公団等）が参加して平成元年度から３ヶ年の予定で行われていた「シビックデザイン導入検討委員会（委員長：中村英夫東大教授）が平成４年３月に終了し、その啓蒙研究活動の一貫としてシビックデザイン地区講習会が平成４年７月１日の東京を皮切りに全国１０地区で実施され、１２月４日の大阪をもって終了した。講習はシビックデザインの基礎知識と橋梁、道路・街路、水辺等の講義で構成され、建設省、都道府県、市町村の職員、コンサルタント、ゼネコンのエンジニア、デザイナー延べ２，５００名弱が参加した。

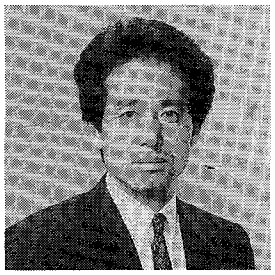
又、その一方で平成４年度から建設省建設大学校に「公共施設デザイン研修」コースが開設され、各種のデザイン関連講義に加え、模型、パースの実技、橋梁、水辺の設計演習が行われ、建設省職員を中心に４０名程が参加した。同様の動きは神奈川県庁、日本道路公団他にもみられる。

これらの動向は、建設省他全ての土木系の技術者に実践的なデザイン教育が着実に浸透し始めていることを示し、従来デザイン後進国と言われていた土木の分野にも都市環境デザインのフィールドが広がりつつあることを意味している。

# 都市景観のあり方をめぐって

## 都市計画学会福岡大会ワークショップより

西村　幸夫
YUKIO NISHIMURA
東京大学
JUDI会員



1992年11月22日、九州大学において開催された日本都市計画学会の大会のプログラムのひとつとして「日本の都市景観と都市計画を考える」というワークショップが持たれた。ここでの議論を素材に現時点での都市景観研究のあり方について考えてみたい。

ワークショップでの論点は次の４点であった。

1　本来の都市景観の向上とは何か。今日の都市景観行政はそれにどのように寄与しているか。

2　都市計画のなかで都市景観はどのような位置を占めているのか。今後どのような位置を占めるべきなのか。

3　都市景観に関する研究・教育の今日的状況をどうとらえるか。それは現実の都市景観の向上にどのように役立ちうるか。

4　現実の都市景観上の問題に研究者・学会はどのようなかたちでかかわるべきなのか。

第一の論点に関しては、行政として求めるべき都市像をどう描いてゆくかが不明である（岸井隆幸日大助教授）、これまでの行政は都市景観整備についてそれなりにうまくやってきたが、次のテーマが見出せない状況ではないか（三村浩京大教授）などといった意見が出された。

第二の論点に関しては、都市景観行政と都市計画行政とは別ものなのかという疑問が岸井氏より出された。都市景観行政として現実に行なわれていることは地区指定ならびに規制誘導といったコントロールか、さもなければ公共事業に景観配慮費用を上乗せすることなどにほぼ限られているのであり、これは地域の活性化のための行政施策としてひとくくりにできるものであるといえるというわけである。

第三の論点に関連して都市景観の研究分野が岡道也九州芸工大教授によって次の６点に整理された。すなわち、①魅力ある都市景観を実際に育ててゆくための実践的な方法論に関する研究、②画像処理など先端技術を用いた景観分析論、③景観論、景観イメージ論など景観の文化的側面の研究、④環境心理学を応用した空間認識論、⑤都市の変容を景観から読み取ろうとする研究、⑥景観形成のための手続き論としての合意形成、市民参加に関する研究、の６つである。

ただし、冒頭の問題提起においても都市景観研究があまりに分析的実証主義的になってしまい、都市計画学会の論文にしても具体の都市景観を改善してゆくことに有効とはいえないものが大半を占めるに至っていることは出席者共通の認識であったといってよい。

第四の論点に関しては、景観についての様々な公理を学会としてうちたててゆくことを目指してほしい（土田旭都市環境研究所所長）という注文が出された。これはさきの第三の論点に対する実務側からの痛烈な批判でもある。土田氏はまた、景観認識を市民が共有することが基本であると強調し、そのために研究者・学会にはやるべきことがあることを示唆した。

議論全般を通じて文化の表象もしくは土地固有の意味性の表現としての景観の位置づけの重要性が共通して強調された。そしてこうした景観が成立するためにはその都市の市民が重要な役割を演じなければならない。景観の背後にあるべき市民の存在がおおきくクローズアップされたという印象が強い。

つまり、あるべき都市像に関して市民の共通認識をつくりだすことに寄与する都市景観研究が要請されているのである。

しかしながら、市民の重要性がうたわれたのに比較して、ワークショップを通じて都市景観研究の積極的な課題の設定や位置づけはあまりなされなかったといわざるを得ない。

いずれにしてもここのところ多くの都市において市街地景観整備に関する予算は格段に増えてきており、その結果安易なデザインの過剰と都市基盤の未整備によるグランドデザインの欠如という奇妙な二重構造が当分のあいだ続かざるをえないといえる。

都市景観研究が研究のための研究にとどまることなく、また都心部の美顔術の手助けをすることにとどまることなく、総体としての都市の認識を手助けし、豊かな都市生活に寄与するものとしてあるためにはいかにあるべきか、むしろ根源的な問いの深さがあらためてあきらかになったワークショップであった。

# 国際パブリックデザインフェアNAGOYA'92

西沢　健
TAKESHI NISHIZAWA

先進諸国が都市のデザインに関心を高めつつある中で、ドイツフランクフルト見本市協会が、1985年第1回パブリックデザイン見本市を開催した。主旨は、新しい都市のあり方を提示しようということであった。しかもそこには多くの産業が関わり、その産業自身の育成にも重点が置かれた。もちろん見本市であるので、そこでの商取引は前提である。フランクフルト見本市協会は、このような見本市を米国圏、東洋圏にネットワーク化しようと試みた。そこで浮上したのが、1989年に行われた国際デザイン会議や国際デザイン博覧会の開催地、名古屋であった。まずはそのプレイベントとして、1988年第1回国際パブリックデザインフェアNAGOYA'88が、フランクフルト見本市協会の協力のもとに開催されることになった。

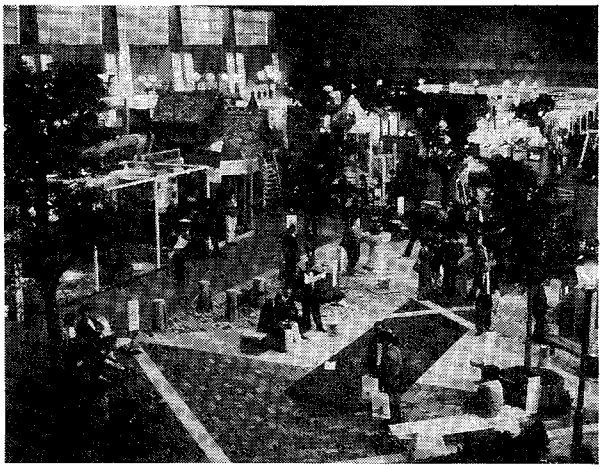
その後、このフェアは2年に1度開催され、今年（1992年）は11月25日から29日名古屋吹上ホールで3回目のオープンとなった。内容は国際パブリックデザイン展が中心事業であり、併催として国際パブリックデザインコンペティション、国際パブリックデザインシンポジウム、世界の街かどコンテスト（写真）、学生のワーキングショップやミニ・パネルディスカッションが随時行われた。全体テーマは、「世界の街かど－ステージの発見」であり、約5,000㎡の展示会場には約100もの企業、団体が出展し、4日間の入場者数は約35,000人であった。展示の主な特徴は、中心にテーマ広場を設けたり、出展方法も、あらかじめ計画されたその広場（奥貫隆氏、林英光氏による）のデザインにそって、各企業が部材を単品で持ち寄り施工するかたちにしたこと。また、一般に展示ブースは箱型のスペースが多いが、ブースの側面を取り外し、見通しのきく空間にしたこと等があげられる。各参加企業には過剰な装飾を避け、製品主体の展示をお願いした。

コンペティションの課題は「都市の中心的ショッピングエリア内に位置する公共広場及びストリート・ファニチュアのデザイン」で、具体的場所として岡崎市内の1000㎡程度の敷地が提示された。審査委員は渡辺定夫、アンドレー・スプーロック、アレキサンダー・ノイマイスター（敬称略）が就き、応募総数233点（日本からの応募104点、海外からの応募129点）の中から作品が選ばれた。シンポジウムは、基調講演木村治美、テーマは「豊かさの中の忘れ物」、特別講演アンドレー・スプーロック、テーマは「私的生活と公的行事」、パネルディスカッションのテーマは「ヴィーグル－動きの中のステージ」、パネラーは彦坂裕、南條道昌、上山良子、伊東俊治、崔広子（敬称略）であった。いずれも国際色豊かな環境で盛り上がりをみせた。また、「世界の街かどコンテスト」（写真）は、163点の内、20点が入選作品に選ばれ、これらの作品はコンペの入選作品と共に展示会会場に紹介され、来場者に公開された。尚、学生のワークショップやミニ・パネルディスカッションは、都市環境デザイン会議のメンバーである、森延彦氏や林英光氏が中心となって、中部ブロックの事業として行われたもので、関東ブロックから近田玲子氏がパネラーとして参加した。

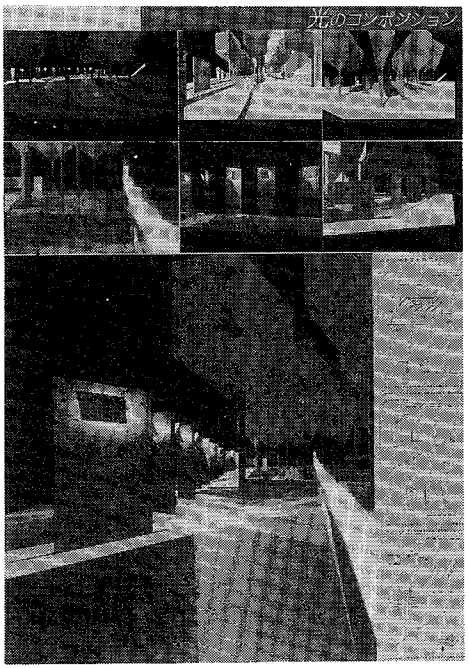
事業主体及び運営は、愛知県名古屋市等により、国際パブリックデザインフェアNAGOYA'92開催協議会が構成され、そこに事務局が設置された。総事業費1億3,300万円。これに対し、事務局に助言する役割で専門委員会が設けられた。この専門委員会にも当会議のメンバーにご協力頂いた。

以上、国際パブリックデザインフェアNAGOYA'92の概要を説明させて頂いたが、今後も皆様のご協力をお願いしたい。

国際パブリックデザインフェアNAGOYA'92
専門委員会座長　西沢　健



展示会場風景



金賞　高島謙一氏　パネルの部

# お知らせと報告

## 第2回全国ブロック幹事会開催される

中野　恒明
運営担当代表幹事

11月25日、長野県小布施町にて第二回全国ブロック幹事会を開催しました。小布施の町づくりについては北斎館をはじめとする公共建築物、民間の建物などを歴史的な雰囲気の家並みのデザイン統一、修景などで全国的に注目されております。この界隈の中心施設である小布施堂傘風舎の会議室を小布施堂さんのご好意で提供頂きました。

全国からはブロック幹事8名(代理出席を含む)代表幹事6名の他、事業委員長と事務局の計16名の出席で、前掲にありますように本年度の各ブロックの活動計画並びに今後の計画、各委員会活動計画等の報告を頂き、意見交換、事務連絡等の後閉会しました。ここでの議論は地方ブロック活動の活性化をいかに図るかに終始した感があります。関東の4ブロックから提案された会員のプロフィールブックの作成は、全国版にする方向が確認されましたが、この費用をどう捻出するか、配付先はどこまでとするか、課題も残されております。当面、同ブロックの幹事、運営委員を中心に議論し、全会員に向けてのアンケートの後、来年秋の印刷を目指すことになりました。

午後は長野市オリンピック局を訪問し、都市計画の現状、会場計画等についての意見交換の後、散会しました。

前日の24日夕刻から全国ブロック幹事会に先立って交流懇親会を催し、JUDIの活動方針、運動論などの幅広い議論を交わしたことも付け加えておきます。

両日とも時間などの制約もあり、必ずしも十分な議論が出来なかった反省もありますが、全国の幹事の方々との顔合わせで、意見交換ができたことを有意義な会合であったと思っております。

## 代表幹事会より

加藤　源
総務担当

代表幹事会は、毎月1回第一金曜日の夜に定例的に開催することとしています。 JUDI Newsは隔月の20日発行を原則としていますから、Newsが発行される間に2回代表幹事会が開催されることになります。従って、今回もまた前号のNews以降開催された2回の代表幹事会から、皆さんにお知らせすべきこと等を以下にまとめます。

**① ブロック活動計画、委員会活動計画の確認**

10月から11月にかけて、各ブロック並びに各委員会から提出されたそれぞれの今年の活動計画を吟味、確認の上、各ブロックに活動費を送りました。委員会活動の予算配分は現在調整中です。各ブロックの活動計画は別掲の通りですので、各ブロックの、あるいは他のブロックの活動計画をご覧の上、各企画に積極的にご参加下さい。

**② 全国ブロック幹事会における意見への対応**

11月25日に長野で開催された全国ブロック幹事会において、北海道、東北、四国ブロックの幹事からブロック面積の広さ等から、ブロック内活動への参加旅費の特別枠が設けられないかとの意見がありました。代表幹事会において、早速相談し、以下のように対応することとしました。

- ブロック活動の企画、運営のための会合への出席旅費は支弁することとしているが、シンポジウム等の催しへの参加費は本会の活動が会員の自主性を基本としていることから支弁しない。
- ただし、優れた企画等止むを得ない場合もあると想定されるので、このような場合には事前に代表幹事会に計画を示し、代表幹事会で相談の上、決定する。

**③ 会費納入のお願い**

- '92年度会費については、既に7割の方が納入済みで、代表幹事会では会員諸兄の本会の活動についての評価と受け止めていますが、残り3割の方について早期に納入下さるようお願いします。本会は会費を収入の基本として運営れさています。

## 広報・出版委員会より

**都市環境デザイン事例の紹介方のお願い**

ＪＵＤＩニュースに事例紹介のページとして各号2ないし4頁あてることにしました。1頁に1ないし2例、場合によっては4例ほど掲載可能と考えています。各ブロック幹事の方には別途お願いしてありますが、会員の皆さんからも事例についての情報・推薦方をお待ちしています。

●事例については最新のもの、近年のものを優先するが、都市環境デザインの観点から長期的に評価に耐えるものを対象とする。また、上述趣旨から古い事例、歴史的事例であっても、今日的な意義があるものはとりあげたい。

●事例は、都市環境におけるデザインとして評価しうるものとし、単体のデザイン（要素）について対象としない。例えば、たとえ建築デザインとしてあるいは橋や照明等のデザインとして優れていても、それが都市環境の中でしかるべき位置づけが可能でなければ対象としない。

●事例紹介内容

○位置図・所在地

○全体がわかるプランあるいは写真各1以上数点

○完成または整備年次

○概要

規模、仕様、計画・設計者（できれば担当者名あるいは計画設計体制）、施工者または制作者名、所有者または管理者名など

○事例としてとりあげる背景

活用制度等簡単な経緯など
○一言コメント
事例としてとりあげる理由・評価
○事例についてより詳細に知りたい場合の資料のありか、照会先

**第10号ニュースの担当は関西ブロック小林郁雄**です。特集テーマとして「住民参加のまちづくりと都市環境デザイン」（仮）をおぼろげに考えていますが、ご意見、投稿を歓迎します。小林まで。

## 事務局より

**松田　安子**

事務局から業務休業のお知らせを致します。

・下記の様にお休みをさせて頂くことになりました。ご不便をおかけして申し訳ございませんが，なにとぞよろしくお願い致します。

①年末年始　12月26日から1月5日まで。
②休暇　1月21日から1月30日まで。
（22金，25月，27水，29金）

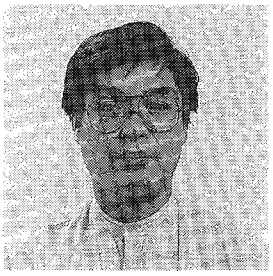
### 会員の動向

・新会員を紹介いたします。

1992年10月1日～11月30日の入会者（13名）は下記の通りです。（入会順、敬称略）
11/30現在の会員数は 352名です。

| 氏　名 | 勤　務　先 |
|---|---|
| 松井　英明 | 財団法人日本色彩研究所 |
| 仙田　　満 | (株)環境デザイン研究所 |
| 南雲　勝志 | ナグモデザイン事務所 |
| 長瀬　光市 | 藤沢市役所 |
| 邑上　守正 | (株)アーバンデザインコンサルタント |
| 柘植　喜治 | THE JERDE PARTNERSHIP INC. |
| 山上　庄一 | 高知市役所 |
| 斉藤　浩治 | パシフィックコンサルタンツ (株)　東北支社 |
| 小川　英明 | 国立岐阜工業高等専門学校 |
| 望月誠一郎 | (株)地域デザイン研究所 |
| 西村　幸夫 | 東京大学先端科学技術研究センター |
| 谷口　庄一 | 日本工営(株)　名古屋支店 |
| 小沢健一郎 | 地域環境設計事務所 |

**矢島健**
**北海道ブロック幹事**



**大谷英二**
**四国ブロック幹事**

## 編集後記

●この秋、都市景観や都市デザインに関する各種の催しがずい分と目立った。都市環境デザインの今日の状況を概観する一助になればと考え、多少アトランダムではあるが紹介することにした。
●原稿枚数については内容が伝わることを第一に各執筆者にお任せしていたが、連絡が不十分で、若干アンバランスになったかもしれない。この間の不手際についてはお詫びしたい。代表幹事会から第2期活動計画を載せたいとの申し入れがあり、頁数が大幅に増えることになった。
●ようやく会報らしくなってきたとも思うが、今後、会員の皆さんからも活発に原稿の寄せられることを期待する。　［土田　旭］

JUDI
NEWS
009
December　1992

広報・出版委員会

小林郁雄　林　泰義
沢木俊冏　宮前保子
土田　旭　森　延彦